

こんしゅう きゅうどう
今週のことば「求道」

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》ヨハネによる福音書1:35-42

きゅう どう
求道

しゅうきょう さと ひら
宗教において、ややもすると悟りを開
さっかく ひと おお
いたように錯覚する人が多くいます。よ
せいじゃ かぎ わたし
ほどの聖者でない限り、私たちはいつも
もと つづ せいじゃ
求め続けねばなりません。むしろ、聖者
さと ひら ひと あゆ や
であり悟りを開いた人はその歩みを止め
ひと
ない人かもしれません。

じぶん すく おし み
すでに自分は救われたとか、教を身
い ひと
につけたと言える人はいません。イエス
したが おし
に従うということは、これこれの教を
り かい
理解できましたというものではありません。
い み い かた つい
ある意味では、イエスの生き方を追
たいけん
体験することかもしれません。イエスは
ひと い かた み
人の生き方がどうあるべきかを身をもつ
しめ い かた わたし
て示しました。イエスの生き方は私たち
い みち しめ
の行くべき道を示すものです。

わたし しんこう あんい かんが
私たちは信仰というものを安易に考え
ひと おこ
ているのではないのでしょうか。人は行な
いによってではなく、イエス・キリスト
しん しんこう ぎ い
を信ずる信仰によって義とされると言っ
たのはパウロでした。しかし、そのパウ

つね はし つづ わたし
口も常に走り続けていました。私たちは
い つごう
パウロの言っている都合のよいところだ
と だ じこべんご
けを取り出して自己弁護しているのでは
ないでしょうか。

たび きょう かい
旅する教会

しんこう かん いっしょう きゅうどう せいかつ
信仰に関しては、一生が求道の生活で
す。これでいいという答えはありません。
こた
もちろん、その場その場での答えは必要
ば ば こた ひつよう
ですが、それがいつでもどこでも通用す
つうよう
るとは限らないのです。

いま きょうかい つか こうきょうようり
今まで教会で使ってきた公教要理は、
いつでもどこでも通用する答えであるか
つうよう こた
のように教えてきました。しかし、いつ
おし
でもどこでも通用する答えはありません。
かくじ お ば こた
各自が置かれた場で、それぞれが答えを
もと
求めていかなければなりません。

だい こうかいぎ きょうかいけんしょう
第2パチカン公会議の教会憲章では、
たび きょうかい ひょうげん つか
「旅する教会」という表現が使われていま
こ てい きょうかい おし げんたい いろいろ
す。固定した教会の教が、現代の色々
もんだい たいおう こうかいぎ ひら
な問題に対応できなくなり、公会議は開
きょうかい たび
かれました。教会もまた旅するものなの
です。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第2主日B年（滝野）